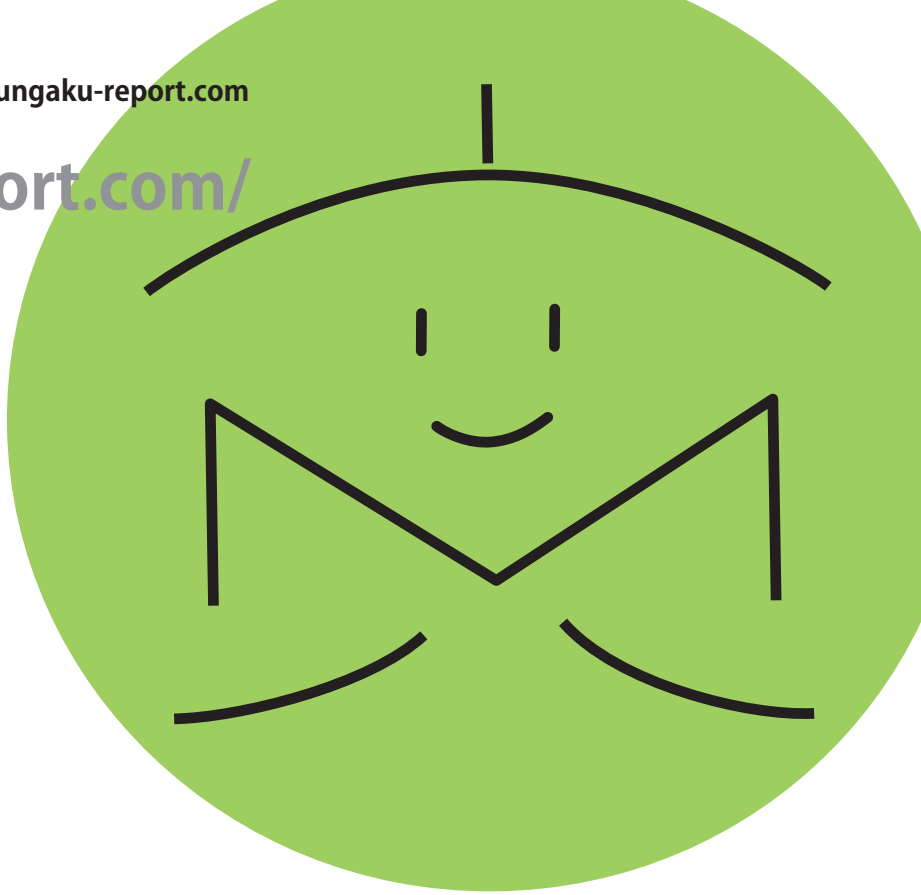
〒113-0022　東京都文京区千駄木2-31-3, 1階101
電話03-5939-9027　FAX03-5939-9094　info@bungaku-report.com
https://bungaku-report.com/



文学通信 出版目録

2024.04

今まで刊行した146冊と近刊10冊を紹介します

掲載が間に合わなかった
6月までに刊行の本

- 高橋早苗『源氏物語の戦略　引用と反復』
- 岩田秀行・小池章太郎『役者絵の図像学　錦絵 八犬伝を読む』
- 一般財団法人人文情報学研究所監修　永崎研宣編
『IIIF が拓くデジタルアーカイブの新展開』（仮）
- 朝里樹『玉藻前アンソロジー 石ノ巻』
- 前田雅之『戦乱で躍動する日本中世の古典学』
- 近藤瑞木『江戸の怪談　近世怪異文芸論考』
- 堀川貴司『五山文学探究　資料と論考』
- 工藤航平・箱崎真隆編［国立歴史民族博物館発行］
『REKIHAKU　蔵書からひもとく知のかたち』（仮）
- 説話文学会編
『説話文学研究の海図　説話文学会 60 周年記念論集』（仮）
- 北海道大学大学院文学院博物館学研究室・
田村実咲（国立アイヌ民族博物館）編
『開講、木彫り熊概論！』（仮）

おてすうします
ご予約待ちしております

デザイン
https://bungaku-report.com/about/design.html
インターネット中継・動画制作
https://bungaku-report.com/about/livestudio.html
お気軽にお問い合わせ下さい
info@bungaku-report.com

☞全国の書店でご注文いただけます。お急ぎの場合は直接ご連絡ください／価格は税別です／本の詳しい情報は Web サイトをごらんください。

古典の再生

盛田帝子編

ISBN978-4-86766-042-3 C0095
A5 判・並製・448 頁
定価：本体 2,800 円（税別）

2024 刊行

古典はいかに再生されてきたか、古典をいかに再生すべきか。「古典」と呼ばれるテキストは、常に再生しつづけている。その歴史を振り返り、未来に向けて、わたしたちがなすべきことを、日本の古典を学ぶ海外の人々とともに、国際的な視野からも考えようとする。2023 年 2 月の国際シンポジウム「古典の再生」から生まれた議論をベースに作った論文集。

未来につなぐために、多様な観点から論じる、総勢 23 名で考える「古典の再生」の現在地。全体を、Ⅰ 再生する古典、Ⅱ イメージとパフォーマンス、Ⅲ 源氏物語再生史、Ⅳ 江戸文学のなかの古典、Ⅴ WEB での古典再生、の 5 部に分け、過去と未来を自在に行き来しながら論じる。

執筆は、盛田帝子／エドアルド・ジェルリーニ／ロバート・ヒューイ／アンダソヴァ・マラル／荒木　浩／楊　暁捷／佐々木孝浩／ジョナサン・ズウィッカー／佐藤　悟／山田和人／田渕句美子／松本　大／兵藤裕己／中嶋　隆／山本嘉孝／ユディット・アロカイ／飯倉洋一／合山林太郎／有澤知世／永崎研宣／幾浦裕之／藤原静香／加藤弓枝。

【目次】

はじめに［盛田帝子］／**Ⅰ　再生する古典**／1　古典×再生＝テクスト遺産　過去文化の復興を理解するための新パラダイム［エドアルド・ジェルリーニ］／2　十八―十九世紀における王朝文学空間の再興［盛田帝子］／3　琉球における日本古典文化の受容［ロバート・ヒューイ］／4　翻訳にみる古典の再生―『古事記』と『日本書紀』の翻訳を中心に［アンダソヴァ　マラル］／［COLUMN］グローカルな「古典の再生」―東西古今の『源氏物語』続篇をめぐって［荒木　浩］／**Ⅱ　イメージとパフォーマンス**／5　絵巻と『徒然草』絵注釈の間―デジタルアプローチの試みをかねて［楊　暁捷］／6　人麿画像の讃の歌［佐々木孝浩］／7　霊媒〈メディウム〉としての古典―初期テレビと一九五六年の幽霊［ジョナサン・ズウィッカー］／8　江戸期における十二単の変遷―『筐底秘記』を中心に現代の装束に至る［佐藤　悟］／［COLUMN］芸能としての古典再生―竹田からくりにおけるイメージとパフォーマンス［山田和人］／**Ⅲ　源氏物語再生史**／9　『阿仏の文』から『源氏物語』へ［田渕句美子］／10　『源氏物語』享受史における詞の表象―色紙形の事例を中心に［松本 大］／11　樋口一葉と『源氏物語』―方法としての和歌［兵藤裕己］／［COLUMN］十七世紀の『源氏物語』―版本メディアと古典［中嶋　隆］／**Ⅳ　江戸文学のなかの古典**／12　柴野栗山の復古論―江戸幕府の儒臣と朝廷の文物［山本嘉孝］／13　紀行文の中の古典―江戸時代女性旅日記を例に［ユディット・アロカイ］／14　上田秋成における〈古典〉語り［飯倉洋一］／［COLUMN］訓読の中の〝国際〟―教育との関わりをめぐって［合山林太郎］／［COLUMN］江戸戯作と古典再生―『万載集著微来歴』を中心に［有澤知世］／**Ⅴ　WEB での古典再生**／15　古典本文をWEB に載せる―TEI ガイドラインに準拠したテキストデータ構築［永崎研宣・幾浦裕之・藤原静香］／［COLUMN］日本古典文学資料のテキストデータ構築をめぐる課題と展望― Lies, damned lies, and statistics?［加藤弓枝］／

江戸の王朝文化復興

ホノルル美術館所蔵レイン文庫『十番虫合絵巻』を読む

盛田帝子／ロバート・ヒューイ編
盛田帝子／松本　大／飯倉洋一校注訳

ISBN978-4-86766-041-6 C0095
A5 判・並製・384 頁
定価：本体 2,800 円（税別）

2024 刊行

なぜ平安時代を復活させようとしたか。

江戸時代、王朝文化を研究し、憧れ、復興しようとする人々が現れる。王朝文化に憧れた彼らが、業平に仮託された男が都を思いながら「名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと」（『伊勢物語』第九段）と詠んだ隅田川のほとりで再興したのが、「十番虫合」であり、本書で紹介するホノルル美術館所蔵『十番虫合絵巻』は、「十番虫合」に出座していた三島景雄が記録し編修した絵巻物である。

果たして「十番虫合」とは何だったのか。どこまでが事前に計画されたもので、どこまでが当座的なものだったのか。彼らは日本の古えを復興しようと努力していたが、それは腐敗した徳川幕府と日本の危機に対処する無能さに対する暗黙の批判であったのだろうか。

古典知の凝縮された『十番虫合絵巻』から、一体何がわかるのか。本文はカラーで紹介。校訂本文、校異・現代語訳・注釈・英訳・人物解題を完備し、『十番虫合絵巻』を緻密に紹介しつつ、そこから読み解くことが出来たものを論考として付す。日英ハイブリッド出版。

執筆は、盛田帝子／松本　大／飯倉洋一／南　清恵／門脇むつみ／加藤弓枝／有澤知世／瓦井裕子／山本嘉孝／ターニャ・バーネット／フランチェスカ・ピザーロ／ヒルソン・リードパス／ジョナサン・ズウィッカー／アンドレ・ヘーグ。

【目次】

まえがき［盛田帝子］／はじめに［ロバート・ヒューイ］／**Ⅰ　本文と解説**／影　印／各種凡例／校訂本文・現代語訳・注釈／一番　二番　三番　四番　五番六番　七番　八番　九番　十番　跋／注釈図版出典一覧／解題――古典知の凝縮された『十番虫合絵巻』の魅力［盛田帝子］／ホノルル美術館所蔵リチャード・レイン・コレクション［南　清恵］／**Ⅱ　論考・コラム**／美術史研究から見た『十番虫合絵巻』の作り物［門脇むつみ］／物合と歌合［加藤弓枝］／知識人たちの遊びと考証――十八世紀末から十九世紀初頭の江戸に注目して［有澤知世］／『十番虫合』と『源氏物語』［瓦井裕子］／『十番虫合絵巻』と漢文脈――草虫詩から花鳥画まで［山本嘉孝］／近世期の『源氏物語』本文と橘千蔭［松本　大］／ノスタルジアの歌学――国学と「十番虫合」［ターニャ・バーネット］／長柄橋［ロバート・ヒューイ］／物たちの歌［フランチェスカ・ピザーロ］／数々の虫（Cricket）の〈声〉［ヒルソン・リードパス］／「死の川」の辺りで―― 二十世紀日本における木母寺の面影について［ジョナサン・ズウィッカー］／『十番虫合絵巻』の英訳によって失われたもの・そして発見されたものについて［アンドレ・ヘーグ］／『十番虫合絵巻』がハワイの教育にもたらしたもの［南　清恵］／**Ⅲ　付録**／人物解題［十番虫合絵巻研究会編］／『十番虫合絵巻』翻刻と校異［翻刻 松本　大・校異 盛田帝子］／類題和歌集との表現の類似［松本　大］／執筆者一覧

東アジア的世界分析の方法

〈術数文化〉の可能性

水口幹記編

ISBN978-4-86766-029-4 C0020
A5 判・並製・528 頁
定価：本体 3,500 円（税別）
2024 刊行

古代中国に登場し、時にそれは「数術」とも称され、以降中国において思想的にも政治的にも重要な役割を果たすこととなる学問分野のひとつ「術数」。

本書では、その術数をめぐりさまざまな観点が提示されているなか、幅広い文化的現象を統合する用語として〈術数文化〉というキータームを設定する。

東アジア地域文化の共通性や独自性、そしてそれらの複雑な絡み合いを読み解くタームとして〈術数文化〉を使用することにより、多面的な文化の読み解きが可能になるのではないか。

術数の多側面的・多分野的・多地域的な広がりに関心の重点を置き、ディシプリンの分岐や一国史観・一地域史観の壁を超えて、東アジアの歴史上に現れた術数の姿を捉える、総勢 27 名による野心的な論文集。

執筆者は、水口拓寿／清水浩子／田中良明／髙橋あやの／鄭淳一／山口えり／山下克明／マティアス・ハイエク／佐々木聡／洲脇武志／佐野誠子／山崎藍／深澤瞳／宇野瑞木／松浦史子／小塩慶／ファム・レ・フイ／名和敏光／三浦雄城／椛島雅弘／小倉聖／王祥偉／游自勇／朴杰淳／押川信久／裴伯釣。

【本書は実に多彩な執筆者陣による実に豊潤な内容となっている。もちろん、本書によって〈術数文化〉がすべてわかるわけではない。〈術数文化〉研究は、ようやくスタートを切ったばかりの「若い」研究である。読者諸氏においては、まずは本書により〈術数文化〉という世界があること、そして、それが非常に魅力的な世界であることを感じていただければ幸いである。】……「序」より

【目次】

序　『東アジア的世界分析の方法 -- 〈術数文化〉の可能性』の意義［水口幹記］
一　〈術数文化〉の可能性と本書刊行の意義／二　本書内容の紹介

第一部　〈術数文化〉の世界 -- その成立と展開

1　「術数」概念をめぐる省察［水口拓寿］
2　陰陽五行説と数［清水浩子］
3　中国の天文学 -- 太陽の運行と蝕への理解を中心に［田中良明］
4　世宗期の天文暦算学における中国知識の受容［高橋あやの］
5　新羅・渤海の使者往来と日本の暦法受容［鄭淳一］
コラム●日本古代の災害認識と「理運」-- 〈術数文化〉は古代を生きた人々にどのような影響を与えたか［山口えり］
6　中世陰陽道と『簠簋内伝金烏玉兎集』-- その古態本の検討［山下克明］
コラム●十七世紀の出版文化における「易占」と「易書」［マティアス・ハイエク］
7　ベトナムにおける天文五行占書の受容と流布について［佐々木聡］
8　『漢書』天文志の注釈と後漢末の学術［洲脇武志］
9　中国仏教における呪術の立場 -- 中国仏教雑密簡史［佐野誠子］
10　中国文学と〈術数文化〉との関わり -- 祥瑞類書『稽瑞』と顔之推「稽聖賦」を通して［山崎藍］
11　治病の言説と信仰と呪術［深澤瞳］
コラム●東アジアの輪廻転生譚と〈シルシ〉-- ベトナム漢文説話を中心に［宇野瑞木］
12　五 -- 六世紀の高句麗壁画墓にみる三足烏について -- 日出づる処の神鳥［松浦史子］
13　日本の祥瑞の流れ［小塩慶］
14　東アジアにおける祥瑞文化と仏教 -- ベトナム李朝期の事例を中心に［ファム・レ・フイ］
15　占術理論の伝世文献・中国出土資料を用いた遡及的考察［名和敏光］

第二部　〈術数文化〉研究の最前線

16　董仲舒の符瑞思想 -- その特徴と継承［三浦雄城］
17　中国兵学における五星占の理について［椛島雅弘］
18　古代中国占術理論の検証 -- 馬王堆漢墓帛書と銀雀山漢墓竹簡の風占の比較［小倉聖］
19　稀有な「狐鳴占」に関する文献とそれに関連した問題［王祥偉／訳・小倉聖］
20　敦煌写本「百怪図」補考［游自勇／訳・小倉聖］
21　敦煌写本「百怪図」続綴［游自勇／訳・水口幹記］
22　『高麗史』天文志小考［朴杰淳／訳・押川信久］
23　中代時期の越南儒家の筮法の実行と易理の体験について -- 阮文理を例として［裴伯釣／訳・小倉聖］

第三部　東アジアにおける天文占知識の形成と伝播

天文占文献二十三種解題［田中良明／水口幹記／佐々木聡／高橋あやの］

はじめに／解題目次／凡例／1『史記』天官書／2『漢書』天文志・五行志／3　若杉家文書『石氏簿讃』／4『宋書』天文志・五行志／5『南斉書』天文志／6「歩天歌」／7『乙巳占』／8『晋書』天文志／9『隋書』天文志／10『天文要録』／11『天地瑞祥志』／12『開元占経』／13『礼緯含文嘉』／14『乾象新書』／15『乾象通鑑』／16『霊台秘苑』／17『観象玩占』／18『天元玉暦祥異賦』／19『天文図象玩占』／20『管窺輯要』／21『家秘要録』『天変地妖記』／22　若杉家文書『雑卦法』／23　皆川家旧蔵資料

執筆者プロフィール

幕末の社会変革と文芸

菊池・大橋家の文人たちの歩みを追って

佐藤　温

ISBN978-4-86766-036-2 C0095
A5 判・上製・512 頁
定価：本体 6,500 円（税別）
2024 刊行

幕末社会を生きた人々にとっての文芸の意味とは何か。
江戸後期から幕末にかけての「文人」と呼ばれる人々の実態はどのようなものだったのか。
文久 2 年（1862）1 月、時の老中安藤信正が江戸城坂下門付近で攘夷や尊王を掲げる志士たちによる襲撃を受けた、後に坂下門外の変と呼ばれるこの事件に深い関わりを持つこととなった菊池・大橋家の人々の生き様を通して、その意味を明らかにしていく。
時代を下るにしたがって、文芸の大衆化による文人が増加していくなか、そのあり方と定義はどう考えればいいのか。文芸活動の実社会とのつながりはどうだったのか。幕末における文芸の社会的意義とは何か。
激しく動揺する社会の有様をも詩中に詠み込み、その詩は志を同じくする文人たちへと伝播していく――。文芸に取り組むことが彼らにもたらしたものは一体何だったのか。文人という存在の意味を探っていく書。

【はたして、同家の人々が幕末社会を生きる中で文芸を自身の中心に据え、自他共に認める文人として活動したことは何を意味するのか。そして、坂下門外の変へと通じるような時局観がなぜこの文人たちの中で醸成され、それが行動へと繋がっていくのか。これらの問題を検討することにより、本書では文人の結社が幕末の人々を動かした思想や言説の依拠する一つの場として社会的な意義を有していたこと、そして文人という概念が変革期を生き抜くためのアイデンティティの形成に寄与するものであったことを明らかにする。】…… 序章より

【目次】

凡例／序　章　幕末の「文人」の姿と菊池・大橋家の人々／**第一部　「文人」大橋淡雅の生きた幕末**／第一章　富商大橋淡雅の文事と時局／第二章　幕末の文人サークルと書画市場／付帯資料　『古筆了伴／安西雲煙　鑑定一件始末』翻印／**第二部　菊池教中の文人意識と『澹如詩稿』**／第一章　「文人」になることの意味 -- 菊池教中『澹如詩稿』をめぐって／第二章　詩人の夢見た理想郷 -- 菊池教中の経世意識と『澹如詩稿』／**第三部　大橋訥庵の攘夷運動と文芸**／第一章　「攘夷家」大橋訥庵像の形成過程／第二章　文人「閑居」の戦略性 -- 大橋訥庵の小梅村移居の背景と目的　／第三章　幕末の志士が読む南宋の興亡 -- 大橋訥庵「陳龍川文鈔序」を中心に　／**第四部　菊池・大橋家の女性たちと文芸**／第一章　菊池民子『倭文舎集』に見る商家婦人の文芸活動／第二章　大橋巻子と『夢路の日記』-- その主題をめぐって／第三章　『夢路の日記』の裏側 -- 書簡が語る大橋巻子の文久二年／第四章　『夢路の日記』の成立と伝播／**終　章　菊池・大橋家の人々にとっての文芸の意味**／あとがき 初出一覧 索引

文明論と伝記の近代

明治前半期の歴史と文学

吉岡　亮

ISBN978-4-86766-031-7 C0020
A5 判・上製・304 頁
定価：本体 6,000 円（税別）
2024 刊行

近代的な伝記の成立過程を初めて明らかにする。
明治前半期、文明論の影響下で近代的な伝記はどのようなプロセスを経て成立することになったのか。同時代における歴史と文学の言説との関連から検討する。

文明史・文明論は、従来の漢文の歴史記述では取りあげることのできなかった事柄を記述することのできる、新しい歴史記述として受容されていくが、本書はそれを歴史記述の対象、方法、人物表象という三点から考察していく。文明論を前提とした人物表象や伝記は、どういう構造を持つものになっていったのか。そして明治期、伝記で新しい人物像はどうつくりあげられていったのか。そこでは歴史と文学の関係性はどう捉えられていたのか。

あらゆる事柄は歴史的に形成されるものであり、様々な要素がせめぎ合いながら展開していくという目論見のもと、明治初年～ 10 年代の文明史・文明論の受容と展開、明治 20 年前後の歴史改良論とそれを踏まえた新しい伝記の試み、そして、明治 20 年代の民友社のテクストから評伝の誕生までを分析する。

俎上にのせ展開していくのは、福沢諭吉『文明論之概略』、ギゾー『ヨーロッパ文明史』、田口卯吉『日本開化小史』、福沢諭吉『学問のすゝめ』、植木枝盛『民権自由論』、小室信介『東洋民権百家伝』、藤田茂吉『文明東漸史』、島田三郎『開国始末 井伊掃部頭直弼伝』、尾崎行雄『経世偉勲』、末広鉄腸『雪中梅』、徳富蘇峰『人物管見』、山路愛山、徳富蘇峰『吉田松陰』、中江兆民『革命前法朗西二世紀事』、『頼山陽及其時代』等。明治期のあらゆる研究者に必読の書。

【目次】

凡例／はじめに―近代的な「伝記」の起源をたどる／**第一部　文明論から改良論へ**／第一章　儒教主義・文明論・愛国―明治一〇年代における教育の中の歴史／第二章　福沢諭吉『文明論之概略』再考―ギゾー『ヨーロッパ文明史』との関連から／第三章　田口卯吉と改良論―文明論から改良論へ／**第二部　文明論を前提とした人物表象と伝記**／第一章　文明社会の義民―明治初年～一〇年代における文明論、国民論、自由民権論の交錯／第二章　島田三郎『開国始末　井伊掃部頭直弼伝』―歴史・伝記・小説／第三章　明治二〇年前後の歴史と小説―尾崎行雄『経世偉勲』と末広鉄腸『雪中梅』を中心に／**第三部　評伝の誕生と民友社**／第一章　徳富蘇峰『人物管見』論―人物評論と同時代の文学論／第二章　山路愛山における歴史と文学／第三章　評伝の誕生―徳富蘇峰『吉田松陰』論／第四章　方法としての人物評論と頼山陽―明治二〇年代の民友社における歴史と文学／**おわりに**／初出一覧　索引

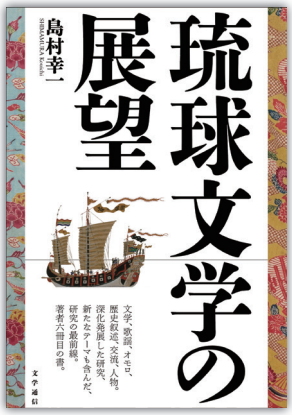
琉球文学の展望

島村幸一

ISBN978-4-86766-034-8 C0095
A5 判・上製・620 頁
定価：本体 8,000 円（税別）
2024 刊行

琉球文学をこれからどう考えていけばいいのか。今後の指針となる重要な書。「琉球人」の歌の日本人への受容のあり方や琉球を介する中国文化・文物の日本へ流入の仕方を、幅広く丁寧に描く。文学、歌謡、オモロ、歴史叙述、交流、人物について、深化発展した研究、新たなテーマも含んだ、研究の最前線。著者六冊目の書。全体を第一部「総論」、第二部「琉球歌謡研究」、第三部「オモロ研究」、第四部「琉球文学の歴史叙述」、第五部「琉球文学の交流・交叉」、第六部「「沖縄学」の人物」により構成。これからの展望を示す。

【目次】
まえがき
第一部　総論
第一章　琉球文学／第二章　琉球の詩歌　琉歌とオモロ、琉歌と和歌／第三章　琉球往還　唐・ヤマトとの交際・交叉―近衛家熙と程順則・向受祐（玉城朝薫）の会見を中心に―
第二部　琉球歌謡研究
第一章　宮古島狩俣の神歌、フサの表現―異なる歌唱主体から―／第二章　琉球文学の表現、唱えられる神話―『久米仲里間切旧記』を資料にして―／第三章　琉球の御拝ツヅ／第四章　首里の旅歌―「旅グェーナ」と「だんじゅかりゆし」―
第三部　オモロ研究
第一章　「地方オモロ」論―排列を『琉球国由来記』「各処祭祀」の記載から考える―／第二章　第十三「船ゑとのおもろ御双紙」の排列／第三章　「色々のおもろ御双紙」第九・第十二・第十四の排列／第四章　第十一「久米島オモロ」論に向けて―世礼国男「首里ゑとおもろ双紙抹消論」の検討―／第五章　琉球王府の雨乞い儀礼―尚家文書『雨乞日記』『雨乞御代参日記』と雨乞いのオモロ―
第四部　琉球文学の歴史叙述
第一章　『古事集』（鎌倉芳太郎資料）の叙述―『琉球国由来記』と『琉球国旧記』にふれながら―／第二章　『球陽』の叙述―「順治康熙王命書文」（『古事集』）から―／第三章　宮古島の士族「忠導氏仲宗根家」の家譜叙述―「八重山征服」をめぐる「悲劇」譚と「征服」譚―／第四章　『倭文麻環』に記された二つの「琉球」記事／第五章　『周藺両姓記事』―家譜の外縁にある物語―
第五部　琉球文学の交流・交叉
第一章　渡来宗教者の文学／第二章　琉球和文学の背景―『大島筆記』を資料にして―
第六部　「沖縄学」の人物
第一章　「島袋源七」研究―ある「沖縄学」研究者の足跡―
あとがき　初出一覧　索引



唐物の神能における唐土

『東方朔』『西王母』『菊慈童』『鶴亀』をめぐって

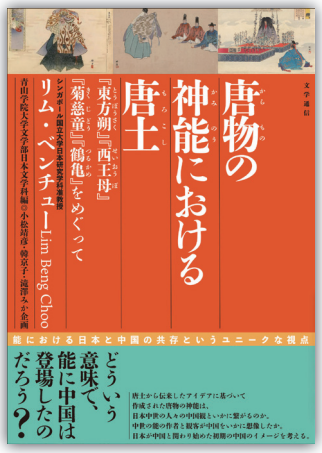
リム・ベンチュー著
青山学院大学文学部日本文学科編

ISBN978-4-86766-038-6 C0074
B6 判・並製・64 頁
定価：本体 700 円（税別）
2024 刊行

どういう意味で、能に中国は登場したのだろう。
唐土から伝来したアイデアに基づいて作成された唐物の神能は、日本中世の人々の中国観といかに繋がるのか。中世の能の作者と観客が中国をいかに想像したか。日本が中国と関わり始めた初期の中国のイメージを考える書。中国神話に登場する神仙（神様）を主人公にしている作品から、能における日本と中国の共存というユニークな視点を考える。

【能に登場する人物は大体が日本人で、物語の背景も一般に日本の名所、あるいは重要な歴史事件と関連ある場所など、日本ではよく知られている所です。ところが、中国（唐土）を劇の背景として、登場人物も中国人のことがあります。たいてい能に登場する中国人は、非常に有名な歴史的人物で、中国でもよく知られています。】……「1　はじめに」より

【目次】
はしがき（小松靖彦）
講師紹介（韓京子）
Ⅰ　はじめに
この講演でお話ししたいこと
能とその分類
Ⅱ　神能と唐物の神能
神能
神能の構造
世阿弥と唐事
「唐物」とは
Ⅲ　作品分析
『東方朔』『西王母』
『鶴亀』
『東方朔』『西王母』『鶴亀』の共通点
『菊慈童』について
『白楽天』における唐土
Ⅳ　終わりに
参考文献
講演を聴いて――コメントとレスポンス
■コメント（滝澤みか）■会場からの質問への解答①
■会場からの質問への解答②
（1）不老長寿の薬を貰うというのは、唐物の神能に見られる特徴なのか。能『富士山』は、唐物ではないが、日本の富士山に不老不死の薬を求めに中国から使者がやってくる内容で、不老不死への憧れという要素がある。
（2）唐物の中に登場せず、宮殿の中にいて臣下に命令を下す皇帝は、永遠不動な北極星と同じイメージを表しているのではないか。



特撮に見えたる妖怪

式水下流

ISBN978-4-86766-033-1 C0020
A5 判・並製・288 頁
定価：本体 2,000 円（税別）
2024 刊行

怪獣や怪人のモチーフとなった妖怪がわかる！
これからの特撮の見方が変わる！
「妖怪」が出てくる特撮作品を集成し分析した本邦初の書。
まだ「特撮」と呼ばれていなかった戦前から、「特撮」が浸透した平成までの変遷を踏まえ、妖怪をモチーフにしたキャラクターが登場する各年代の特撮作品を紹介。妖怪については、古典や民話、また同時代の児童向け雑誌や図鑑、関連資料から横断的に探り尽くす。
資料編では、妖怪に関する特撮や映画などの映像作品と刊行物をまとめた年表、特撮作品別の登場妖怪一覧、妖怪別の特撮作品一覧の３つを収録。一覧では、作品に登場する妖怪の特徴を可能な限り紹介してある。
特撮作品の妖怪、あるいは妖怪をモチーフにしたキャラクターのデザインは、家電製品の技術進歩や流行のファッションなど、その時代の空気が色濃く反映されていることがある。たとえば、ストリートカルチャーが流行した 1990 年代には、特撮ヒーローたちのみならず、登場する妖怪たちもその空気をまとっていたりする。親和性が高い「特撮」と「妖怪」を軸にまとめることで、本書は幅広いジャンルの相互理解を進めたり、時代背景も考えることができる本になった。
特別寄稿・京極夏彦「ないものを撮る」収録。
中学生から一般の方まで、特撮好きはもとより、妖怪ファン、怪異ファン、必読の書！

【目次】
はじめに　凡例
第一章　妖怪特撮の世界　作品とその変遷
特撮に見えたる妖怪前史　その分類まで
黎明期　一九六〇年代
過渡期　一九七〇年代から一九八〇年代まで
コラム１●幻の企画書　妖怪ハンターゼノン
発展期　一九九〇年代から二〇〇〇年代まで
成熟期　二〇一〇年代以降
第二章　特撮に見えたる妖怪
河童は宇宙人である［河童］
河童のようで河童ではない！［水虎（すいこ）］
時代によって変化した飛行物体［天狗］
巨大な雪女に襲われる［雪女］
人を操る怪猫騒動［化け猫］
戦うために抜けた首［轆轤首］
コラム２●特撮に見えたる世界妖怪たち
その知識と影響の変遷を斬る！［鎌鼬（かまいたち）］
いつの間にやら悪者になってしまった妖狐［九尾の狐］
伝承由来の妖怪たち［柳田國男の妖怪たち］
描かれた妖怪たち［鳥山石燕の妖怪たち］
コラム３●特撮に見えたる怪奇～妖怪のようなものたち～
第三章　資料編　作品別登場妖怪一覧　妖怪別登場作品一覧　年表
寄稿・**京極夏彦「ないものを撮る」**

デジタル時代の児童の読解力

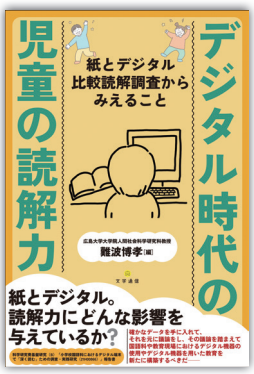
紙とデジタル比較読解調査からみえること

難波博孝編

ISBN978-4-86766-039-3 C0037
四六判・並製・140 頁
定価：本体 1,500 円（税別）
2024 刊行

紙とデジタル。それらは児童の読解力にどんな影響を与えているのだろうか。児童のメディアとの向き合い方が大きくかわっていくなか、何をどう考えていくべきか。
コロナパンデミックの時代にデジタル機器一人一台を迎えた学校教育現場では、学習者の読解力が低下するのではないかという懸念や、紙をデジタル機器に置き換えただけのカリキュラムや授業で果たしていいのかといった不安が解消されないまま、急速にデジタル機器を使った教育実践が進められている。
確かなデータを手に入れて、それを元に議論をし、その議論を踏まえて国語科や教育現場におけるデジタル機器の使用やデジタル機器を用いた教育を新たに構築するべきだと考えた編者らが、児童の読解力、特に深く読む「読解力」が異なるのかどうか、異なるとしたらどこが異なるのか、また、児童のメディア志向（読書するなら紙がいいか、デジタルがいいかなど）が読解力にどのような影響を与えているのかの調査を行った。本書はその調査報告である。執筆は、菅谷克行（茨城大学人文社会科学部教授）、森美智代（福山市立大学教育学部教授）、瀧口美絵（広島都市学園大学子ども教育学部准教授）、黒川麻実（大阪樟蔭女子大学児童教育学部准教授）、髙橋茉由（秋田大学教育文化学部講師）。

【目次】はじめに―今のままの「読むこと教育」ではいけない―／**第１章　本書の調査研究の背景・目的**／第１節　本書の調査研究の背景／第２節　本書の調査研究の目的および学術的独自性と創造性／**第２章　深く読むことについての理論的整理**／第１節　「深く読む」ことの概要／第２節　「深く読む」ことの構造／第３節　「深く読む」ことの詳細／第４節　「深く読む」ことの整理／第５節　まとめ／**第３章　調査の概要**／第１節　調査全体の概要／第２節　Ｍ市立Ｋ小学校の調査の概要／第３節　Ｍ市立Ｎ小学校の調査の概要／第４節　Ｏ市立Ｓ小学校の調査の概要／第５節　Ｏ市立Ｍ小学校の調査の概要／第６節　Ｔ市立Ｘ小学校の調査の概要／**第４章　紙とデジタルの比較読解調査の結果**／第１節　Ｋ小学校／第２節　Ｎ小学校／第３節　Ｓ小学校／第４節　Ｍ小学校／第５節　Ｘ小学校／第６節　まとめ／**第５章　インタビュー・アンケート調査の結果**／第１節　インタビュー調査の結果（Ｋ小学校）／第２節　アンケート調査の結果①／第３節　まとめ／**第６章　観察調査の結果（Ｋ小学校）**／第１節　回答時間の分析／第２節　回答行動の分析／第３節　まとめ／**第７章　各調査の照合**／第１節　読解調査×回答行動×インタビュー調査（Ｋ小学校）／第２節　読解調査×アンケート調査①／第３節　読解調査×アンケート調査②／第４節　まとめ／**第８章　共同研究者からのコメント**／第１節　デジタル志向の強い子ども達からみえること（黒川麻実）／第２節　書籍のメディア特性と読者のメディア志向性（菅谷克行）／第３節　デジタルを読むことの教育の必要性（瀧口美絵）／第４節　本研究が提示した学習者像（髙橋茉由）／第５節　メディアの転換と学習内容（森美智代）／**第９章　全体のまとめと今後の展望**／



中間小説とは何だったのか

戦後の小説雑誌と読者から問う

小嶋洋輔・高橋孝次・
西田一豊・牧野悠

ISBN978-4-86766-051-5　C0095
A5 判・並製・368 頁
定価：本体 3,200 円（税別）
2024 刊行

戦後の日本、人々は雑誌で小説を読み、小説とともに人生を味わい、数多くのベストセラーが生まれた。本書がテーマとする小説は、昭和二〇年代から四〇年代にかけて隆盛した、純文学と大衆小説の「中間」的な小説という意味で「中間小説」と呼ばれるものである。はたして、かつて多くの読者を引きつけ、多様なジャンルを呑み込んだ中間小説とは何だったのか。中間小説の生まれる場となった雑誌とはどのようなものだったのか。その誕生から読者層が形成され、市場が確立、拡大するまでを追う。
取り上げる雑誌は『日本小説』『小説と読物』『苦楽』『小説界』『小説朝日』『小説新潮』『別冊文藝春秋』『オール讀物』『別冊モダン日本』『小説セブン』『小説現代』『野性時代』等。登場する作家たちは、五木寛之・遠藤周作・大佛次郎・菊池寛・柴田錬三郎・丹羽文雄・舟橋聖一・松本清張・山田風太郎・吉行淳之介等。
ほとんど論じられることはなく、曖昧なままにやりすごされてきた「中間小説」にさまざまな角度から光を照射することで、それぞれの雑誌や出版、作家や作品、あるいは編集者、読者が相互に干渉し合い、それぞれの時代に段階を経て、大きなうねりの一部となっていく過程をたどる。

【目次】中間小説とは何だったのか―「はじめに」に代えて　［高橋孝次］／**第一部　昭和二〇年代の中間小説誌**／第１章　「中間小説誌」の誕生―和田芳恵と『日本小説』［高橋孝次］／コラム　『小説と読物』―「筋の面白さ」を追求した先駆け　［小嶋洋輔］／第２章　「チャンバラ中間小説」の徴候―戦前期大衆文学論からの要請［牧野悠］／第３章　舟橋聖一『雪夫人絵図』と中間小説誌　［西田一豊］／コラム　昭和二〇年代の『小説新潮』―「御三家」の筆頭　［小嶋洋輔］／第４章　大衆雑誌懇話会賞から小説新潮賞へ―「中間小説」の三段階変容説　［高橋孝次］／コラム　昭和二〇年代の『別冊文藝春秋』―芸術の香りただよう「小説好きの大人の雑誌」［高橋孝次］／**第二部　昭和三〇年代の中間小説誌**／第１章　中間小説の「真実なもの」―『地方紙を買う女』と『野盗伝奇』［高橋孝次］／第２章　清張の〝ポスト銭形〟戦略―『オール讀物』のなかの「無宿人別帳」［牧野悠］／コラム　昭和三〇年代の『オール讀物』―戦前・戦後を生き抜いた「檜舞台」［牧野悠］／第３章　中間小説誌における「読者の声」欄の位置―『小説新潮』の試み（昭和二八年～昭和三九年）［小嶋洋輔］／第４章　『日本の黒い霧』と小説群―松本清張の小説方法をめぐって　［西田一豊］／**第三部　昭和四〇年代の中間小説誌**／第１章　吉行淳之介『男と女の子』と『別冊モダン日本』―〈戦後〉の違和をいかに描くか　［小嶋洋輔］／第２章　笑いのリベンジ―山田風太郎「忍法相伝 73」から「笑い陰陽師」へ［牧野悠］／第３章　遠藤周作と中間小説誌の時代―『小説セブン』と人気作家の戦略　［小嶋洋輔］／第４章　表皮としてのエンターテインメント―五木寛之「さらばモスクワ愚連隊」論　［西田一豊］／コラム　創刊から昭和四〇年代前半までの『小説現代』―最後の「御三家」［小嶋洋輔］／おわりに―中間小説誌研究展望　［小嶋洋輔］／中間小説誌関連年表　中間小説ブックガイド

歌舞伎　研究と批評 68

本号から文学通信の発売になりました

特集・歌舞伎と近現代演劇

歌舞伎学会編

ISBN978-4-86766-035-5 C3374
A5 判・並製・130 頁
定価：本体 2,330 円（税別）
2024 刊行

歌舞伎学会が発行する学会誌『歌舞伎　研究と批評』（年１冊刊行）の第 68 号。
本号の特集は「歌舞伎と近現代演劇」。中村哲郎さんへのインタビューと、赤井紀美「久保栄と前進座―プロレタリア演劇と歌舞伎の交錯―」、村島彩加「歌舞伎と宝塚歌劇―今後の研究のために―」を掲載。
ほか、投稿論文（高橋則子）、演劇年間評（犬丸　治、田中綾乃、富岡　泰）、寺田詩麻による二〇二二年度秋季大会　印象記、追悼として、上村以和於「田之助思い出草―澤村田之助追悼―」、木谷真紀子「追悼・歌舞伎座大道具十七代目　長谷川勘兵衛氏」を掲載。

【目次】
特集：歌舞伎と近現代演劇
●戦後歌舞伎と近現代演劇―中村哲郎さんに訊く―
（聞き手）児玉竜一・（編集）日置貴之
●久保栄と前進座―プロレタリア演劇と歌舞伎の交錯―［赤井紀美］
●歌舞伎と宝塚歌劇―今後の研究のために―［村島彩加］
［投稿］
●騙る悪婆―歌舞伎『お染久松色読販』と『今古奇観』―［高橋則子］
［演劇年間評］
●コロナ猖獗のもとで［犬丸　治］
●四半世紀を経た平成の三之助の「いま」―二〇二二年の東京の歌舞伎評―［田中綾乃］
●令和四年度の文楽［富岡　泰］
［コロナ禍とオンライン学会］
●二〇二二年度秋季大会　印象記［寺田詩麻］
［追　悼］
●田之助思い出草―澤村田之助追悼―［上村以和於］
●追悼・歌舞伎座大道具十七代目　長谷川勘兵衛氏［木谷真紀子］
・歌舞伎学会奨励賞規約
・『歌舞伎―研究と批評―』投稿規定
・留学生の研究発表サポート制度
・〈第十八期歌舞伎学会役員〉（二〇二二～二三年度）
・歌舞伎学会会則
編集後記

麻雀漫画50年史

V 林田

ISBN978-4-86766-049-2　C0076
四六判・並製・564 頁
定価：本体 2,400 円（税別）
2024 刊行

これも麻雀漫画、これが麻雀漫画。だから楽しい！
阿佐田哲也の小説『麻雀放浪記』のヒットに代表される麻雀ブームの発生と青年向け漫画誌の勃興の中から生まれ始めた麻雀漫画は、どのような変遷をたどってきたのか。
その半世紀、50 年の歴史を、漫画家、原作者、編集者へのインタビューと膨大な資料から明らかにする、決定版通史。
「瞬間瞬間を必死に生きて」きた作家、作品、出版社について、その列伝を細かく描ききることで、「本書をきれいに舗装された小説にはしたくなかった」と著者が言うごとく、リアルで生々しく血の通った歴史となっている。それだけに証言、資料が読み込まれたうえに成った本書は、多様な読み方もいざなう。既存の出版史、小説史、漫画史、アニメ史、映画史とも接点は多く、麻雀漫画という辺境ジャンルから、それぞれを逆照射する力も宿している。
以下、各章のイントロダクションを再掲します。

第１章　麻雀漫画黎明期　70 年代

60 年代末、阿佐田哲也の小説『麻雀放浪記』のヒットに代表される麻雀ブームの発生と青年向け漫画誌の勃興の中で、麻雀をメインに扱う漫画作品が徐々に生まれるようになった。この流れの中で、虫プロ出身で麻雀にも造詣の深かった北野英明が阿佐田の短編小説コミカライズを皮切りに頭角を現し、ジャンルの第一人者となる。

一方、72 年には麻雀をメインとする出版社・竹書房が誕生。当初は活字雑誌『近代麻雀』のみを刊行していたが、75 年に北野を中心として麻雀漫画へ本格的に参入し、日本初の定期刊行麻雀漫画誌といえる『漫画ギャンブルパンチ』を創刊する。70 年代後半になると、桃園書房や徳間書店といった他社も進出しはじめた。

こうして一つのジャンルとなった麻雀漫画ではあったが、麻雀を知らない人にまで届くようなヒット作と呼べるものは生まれておらず、日陰の存在でもあった。設定やストーリーのバリエーションは少なく、演出面でも麻雀というゲームをどう漫画表現に落とし込むかの試行錯誤中といった具合であり、現代の読者が読むには厳しい作品が多いとは言わざるを得ない。この状況が変わるのは、80 年代を待つことになる。

第２章　麻雀漫画誌戦国時代　80 年代

麻雀漫画にとって激動といえる 10 年間。

新星・片山まさゆきの登場により、『ヤングマガジン』というメジャー雑誌で「日本初の大ヒット麻雀漫画」と言ってよい『ぎゅわんぶらあ自己中心派』が生まれる。一時の経営危機から『フリテンくん』の大ヒットで持ち直した竹書房でも、大学漫研を出たての若い編集者により誌面刷新が行われ、片山やかわぐちかいじといった新たな描き手がそれまでとは一線を画す麻雀漫画を生み出した。さらに、編集者やアルバイトとして竹書房に出入りしていた人間から来賀友志・馬場裕一・土井泰昭といった才のある原作者・ライターがデビューしていき、誌面をさらに充実させていく。

こうした状況を見てか、双葉社や芳文社をはじめとする劇画系の様々な出版社も麻雀漫画誌に新たに参入、最盛期はなんと 15 誌を数えるほどになった。この状況は、『哭きの竜』という麻雀漫画誌の枠を超えた大ヒット作が生まれたこともあって竹書房の一人勝ちに終わり、それ以外の麻雀漫画誌は 80 年代が終わるのと歩調を合わせるようにしてほとんどが休刊する。

第３章　竹書房麻雀漫画の黄金時代　90 年代

竹書房の麻雀漫画にとっての黄金時代。『近代麻雀オリジナル』『別冊近代麻雀』『近代麻雀ゴールド』という 3 誌は、フリー雀荘という安定した広告主を得ていたこともあり、それぞれ独自の色を出しながら傑作を多く生み出した。

この時代を牽引したのは、なんと言っても福本伸行。それまでにない頭脳バトル性と独特の絵柄で人気を高めると、『アカギ』でその名を不動のものとした。エッセイ風漫画の世界に新境地を拓いた西原理恵子も、この時期の竹書房から大きく飛躍していった漫画家として名を外すことはできない。さらに、80 年代から主軸であった片山や来賀が『ノーマーク爆牌党』『麻雀蜃気楼』などの傑作をものすれば、伊藤誠ら新鋭も間断なく登場し、誌面は安定して豊かであった。

竹書房の麻雀漫画で V シネマ化というメディアミックスが多く行われたのもこの時期。中心となったのは、『ショーイチ』を原作とする『雀鬼』シリーズである。モデルとなった「雀鬼」こと桜井章一は、竹書房主催の大会で「雀鬼流」の門下生が活躍を重ねたこともあり、麻雀および麻雀漫画界に確固たる地位を築く。

このような、ほとんど「麻雀漫画＝竹書房」であった時代が変わったのは 97 年。『週刊少年マガジン』で始まった『哲也』が少年誌で初めての大ヒット麻雀漫画となり、新たな読者層をジャンルに呼び込むこととなる。

第４章　下り坂の専門誌と一般誌掲載作の台頭　00 ～ 10 年代

00 年に入ってすぐのところで、近麻系列誌に大変動が起きた。『近代麻雀』へ『近オリ』の主力連載が移籍するという実質的な統合が行われたのである。これに伴い『近代麻雀』の 2 軍的な雑誌となった新生『近オリ』は、青息吐息でリニューアルを繰り返す迷走状態に陥った。再編とは直接関係がなかった『ゴールド』も、極端に雀鬼流に傾倒した異様な誌面を経て 06 年に休刊。『むこうぶち』『ムダヅモ無き改革』という新たなヒット作の誕生や、『アカギ』のアニメ化による新規ファン層の拡大など個々では景気の良い話もあったとはいえ、全体的に竹書房麻雀漫画は活力を失っていった。ネット麻雀の普及など、理由は複数考えられる。

その一方で、00 年代前半には『天牌』、後半には『咲 -Saki-』と、竹書房以外の雑誌から大ヒット作が生まれる。前者は 22 年に原作の来賀が急死するまでに本編と外伝を合わせて単行本 150 巻以上を数える大河麻雀漫画に育ち、後者はいわゆる「萌え」系の絵柄で美少女たちによるスポ根的な部活ものとして麻雀を描くというように、どちらも麻雀漫画界空前の作品となった。この 2 作ほど派手ではないが、『ヤングチャンピオン』連載の『凍牌』も 15 年以上連載が続く人気作となる。

10 年代に入っても状況は 00 年代とあまり変わらない。『天牌』や『凍牌』は快調に巻を重ね、『咲 -Saki-』はスピンオフの『阿知賀編』も大成功を収めるなど好調が続くが、竹書房からは新たな大ヒット作は生まれず、『近オリ』がついに休刊、『アカギ』が停滞した展開を 20 年近く続けた末に完結するなど、一つの時代の終わりを感じさせる状態となった。

第５章　麻雀漫画のこれから　20 年代

18 年、麻雀のプロスポーツ化を目指して「Mリーグ」が発足し、麻雀界を変化させる成功を収める。『アカギ』終了後に新たに始まった福本作品『闇麻のマミヤ』が今ひとつ不発に終わったこともあってか、『近代麻雀』は連載の多くがMリーグが絡むものに急速にシフトして内向きの雑誌となり、かつてのような「一定の一般性を持った専門誌」という立ち位置を捨てた。その一方で、『ジャンプ＋』『まんがタイムきららキャラット』『なかよし』などといった、これまでにない媒体で麻雀漫画の新連載が始まっている。

おそらく今後もこの状況は変わらず、麻雀漫画は「まえがき」で触れたような特殊なジャンルではなくなり、漫画内の一ジャンルとして続いていくことになるだろう。

〈転生〉する川端康成 II

アダプテーションの諸相

仁平政人・原善編

ISBN978-4-86766-040-9 C0095
A5 判・並製・488 頁
定価：本体 3,500 円（税別）
2024 刊行

川端文学のオマージュ・引用やアダプテーションはどのようなものであったか。
映画・テレビドラマ・舞台芸術・マンガ・美術・音楽・国語教材・ゲームなど、川端の多様な〈転生〉をありかたを資料として網羅し、論究し尽くす。
巻頭には、漫画家・清家雪子の新作「遺書」を掲載。
研究者による論考のほか、映画・舞台に関わる 3 名の実作者、樋口尚文、伊藤俊也、山縣美礼によるテキストを収録。加えて 1930 年代から 2013 年 12 月に至るまでの、川端文学の映画化・テレビドラマ化・舞台化・コミカライズおよびキャラクター化について、網羅的に取り上げて作品ごとに解説を行っている。
資料編には、「川端康成アダプテーション関連参考文献一覧」と「川端康成〈転生〉作品年表【アダプテーション篇】」を収録。

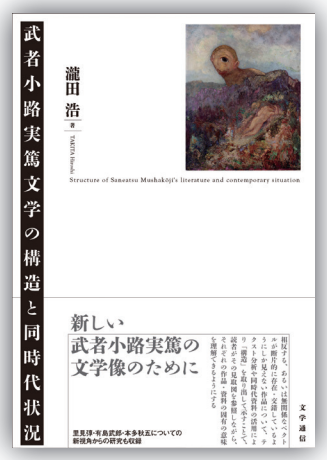
【目次】
巻頭マンガ「遺書」○清家雪子
はじめに○編者
I　アダプテーションによる転生
01　川端康成とアダプテーションの諸問題―総論に代えて○仁平政人／ 02　川端文芸の映画化―作品の生命を伸ばす○中村三春／ 03　山口百恵はなにを体現したか―「女性映画」としての川端映画○志村三代子／ 04　アダプテーションのモダニズム ―川端康成と成瀬巳喜男○今井瞳良／ 05　テレビドラマが描いた川端文学―テレビ黎明期から現代まで○瀬崎圭二／ 06　川端作品のテレビドラマ化と演出家・畑中庸生の方法論○古崎康成／ 07　単眼の世界から複眼の世界へ―宮本研による『雪国』の舞台化○赤井紀美／ 08　舞踊劇『船遊女』はだれものか―川端康成と「宝塚情緒」○中村祥子／ 09　オペラ「眠れる美女」の持つ批評性○原　善／ 10　美術作品になった川端文学―高田力蔵、根岸敬、飯田達夫、牧進、田主誠、村上三島らの試み○深澤晴美／ 11　音楽化される川端康成―歌謡曲からオペラまで○長屋晃一／ 12 「献身的な少女」への〈転生〉―国語教科書における「伊豆の踊子」○西尾泰貴／ 13　引用するゲーム―『文豪とアルケミスト』に見る文学の〈転生〉○東雲かやの／
II　実作者と川端文学の〈対話〉
14　川端文学と「映画の魔」○樋口尚文／ 15　映画はヨコになっている原作をタテに起す作業から始まる―「白蛇抄」の場合○伊藤俊也／ 16　永遠のスーパースター　川端康成に踊らされて―台湾・日本国際共同企画 川端康成三部作『片腕』『少年』『水晶幻想』○山縣美礼
III　紹介編
映画（53 作品＋補遺）／テレビドラマ（20 作品＋補遺）／舞台（37 作品＋補遺）／マンガ（16 作品）／キャラクター（3 作品）
IV　資料編
川端康成アダプテーション関連参考文献一覧／川端康成〈転生〉作品年表【アダプテーション篇】○恒川茂樹

武者小路実篤文学の構造と同時代状況

瀧田　浩

ISBN978-4-86766-032-4 C0095
A5 判・上製・504 頁
定価 : 本体 4,000 円（税別）
2024 刊行

これからの新しい武者小路実篤の文学像のために。
武者小路文学における構造と同時代の社会・文壇に焦点を当て、精密に分析・調査する書。
相反する、あるいは無関係なベクトルが断片的に存在・交錯しているようにしか見えない作品について、テクスト分析や同時代資料の活用により「構造」を取り出して示すことで、読者がその見取図を参照しながら、それぞれの作品・資料の固有の意味を理解できるようにする。
【目次】はじめに
第 I 部　武者小路実篤文学の構造と同時代の状況
第一編　第一創作集『荒野』にみる〈文学〉生成の過程
第一章　『荒野』の時点―トルストイ主義と文学―／第二章　「解決の文学」としての『荒野』―若きトルストイアンの本―
第二編　『白樺』創刊前後における創作方法の転回
第三章　『荒野』後の状況―散逸小説「楽天家」を中心に―／第四章　「それから」受容と歪んだ三角関係―「生まれ来る子の為に」と「ある家庭」をめぐって―
第三編　第二創作集『おめでたき人』発表当時の文壇状況と戦略
第五章　「お目出たき人」論の前提―〈主観〉の文壇・よそおいのイヒロマン―／第六章　『おめでたき人』という回路―仰視と俯瞰の技法―
第四編　初期戯曲作品における〈自己主義〉再考
第七章　「或る日の一休」論―すでに捨てていて、そして駆ける―／第八章　「その妹」論―戦後受容の問題と障害学の観点から―
第五編　長編非戦戯曲「ある青年の夢」の同時代状況と構造
第九章　「ある青年の夢」論の前提―非戦文学の評価と同時代の非戦言説をめぐって―／第一〇章　「ある青年の夢」論―宙吊りの非戦文学―
第六編　新しき村在村期に書かれた代表作品再考
第一一章　「友情」の周辺―一九一九（大正八）年の新聞連載小説として―／第一二章　「人間万歳」と人類／動物表象―ポスト・ヒューマニズム／アニマル・スタディーズの観点から―
第七編　戦中期における東洋思想への傾斜の問題
第一三章　武者小路実篤と漢学―勘解由小路家・高島平三郎からの影響と『論語私感』―／第一四章　武者小路実篤と仏教―『維摩経』が書かれた「仏教復興期」をめぐって―
第 II 部　『白樺』派文学への新視角
第一章　里見弴「かね」論―貨幣蒐集と欲望―／第二章　〔資料紹介〕『有島武郎全集』未収録・有島武郎の志賀直哉宛書簡―原田喬氏より白樺文学館への寄贈資料―／第三章　本多秋五の〈野性〉と〈後退〉―「『白樺』派の文学」への接近―
第III部　英文論文
Mushakōji Saneatsu’s Early Works and the Historical Role of Civilization: Structure of “Pure Inner Space”



ミュージアムと生きていく

2024 刊行

大澤夏美

ISBN978-4-86766-048-5　C0076
A5 判・並製・136 頁・カラー
定価 : 本体 1,800 円（税別）

ミュージアムをめぐる、生き方、かかわり方を高校生と一緒に考える。
いずれは大学で歴史学や文学、博物館学を学びたい。将来は学芸員の仕事に興味がある。けれど、採用の間口の狭さや雇用の不安定さへの不安もある。そう考えている高校生の博子さんと、ミュージアムグッズ愛好家の著者が、ミュージアムと一緒に生きている人たちにお話を聞いて歩きまわり、対話をし、悩み、考えていく本です。
ミュージアムの中や外、働く、働かないにかかわらず、いろんな立場、いろんな役割、いろんな職業の人たちは、どんなふうにミュージアムと共に生きているのか。ミュージアムにまつわる進路、生き方、人生。この本では、すぐに答えの出ないテーマも取り上げました。著者のミュージアムグッズ愛好家・大澤夏美と、高校生の博子さんが、もりおか歴史文化館学芸員　福島茜さん、合同会社ＡＭＡＮＥ　小川歩美 さん･佐々木紫帆さん、フォトグラファーの佐々木香輔さん、なにわホネホネ団　荻巣樹さん、とびらプロジェクト　太田侑里さん、きんたい廃校博物館　大橋一輝さんに話を聞きます。これからの進路を考えるためのおすすめブックリスト付き。ミュージアムを将来の仕事の選択肢に加えたい方、転職してミュージアム業界に携わりたい方には、業界研究の一助になるかもしれません。さらに言えば、もっと深くミュージアムの活動に参加したい方にもオススメです。

【目次】

はじめに　ミュージアムとともに生きるために
学芸員ってどんなふうに働いているんだろう？［もりおか歴史文化館学芸員　福島茜］
旅の途中に思うこと（1）　日々の勉強へのモチベーション
ミュージアムをテーマにした進路はどうやって探せばいいんだろう？［合同会社ＡＭＡＮＥ　小川歩美／佐々木紫帆］
旅の途中に思うこと（2）「かっこいい」からつながる未来
ミュージアムに向き合っている人はどんなことを大切にしているんだろう？［フォトグラファー　佐々木香輔］
旅の途中に思うこと（3）誰かの宝物を尊重するために
私たちにとってミュージアムはどんな存在なんだろう？［なにわホネホネ団　荻巣樹］
旅の途中に思うこと（4）ミュージアムは自分を大切にする場所
今からでもできる活動ってどんなものがあるんだろう？［とびらプロジェクト　太田侑里］
旅の途中に思うこと（5）語り合うこと、そばにいること
自分の「好き」や「得意」をどうやってミュージアムにつなげたらいいんだろう？［きんたい廃校博物館　大橋一輝］
旅の途中に思うこと（6）ミュージアムを面白がって活用する
ミュージアムを応援するためになにができるんだろう？［ミュージアムグッズ愛好家　大澤夏美］
旅の途中に思うこと（7）もやもやを言葉にしていくプロセス
あとがき　付録・おすすめブックリスト

地域歴史文化のまもりかた

災害時の救済方法とその考え方

天野真志・松下正和編

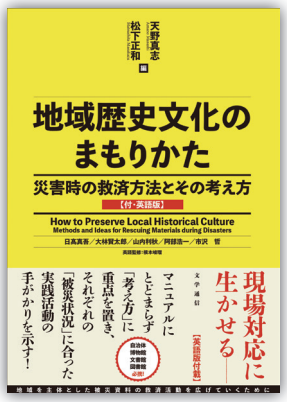
2024 刊行

ISBN978-4-86766-043-0　C0021
A5 判・並製・296 頁・一部カラー
定価 : 本体 1,800 円（税別）

自然災害が多発する現代社会において宿命的な課題である、災害対策。地域の歴史や文化はどうまもっていけばいいのか。現場対応に生かせる書。
阪神・淡路大震災から東日本大震災を経て現在に至るまで、被災資料救済の対応に関わる救済技術の紹介やマニュアルが多数提示されてきたが、実は被災の状況は地理的状況や災害程度等によって大きく変容し、救済対象となる資料の状態も一様ではない。
本書はマニュアルにとどまらない、「考え方」に重点を置き、それぞれの「被災状況」に合った実践活動の手がかりを示す。
また資料をとりまく人と地域との関わりに注目し、救済から継承に至る経過のなかで実践を重ねるいくつかの取り組みを通して、社会のなかで活用される専門知のあり方についても考えることも課題とする。国際化に対応すべく、英語版も併載。
自治体、博物館、文書館、図書館、また地域資料の災害対策、保存・継承に興味のある方必携。執筆は、天野真志／松下正和／日髙真吾／大林賢太郎／山内利秋／阿部浩一／市沢　哲／英語監修：根本峻瑠。

【目次】

挨拶　奥村　弘（神戸大学大学院）
はじめに　天野真志（国立歴史民俗博物館）
第 1 部　資料救済の前提
第 1 章　災害発生時における地域と資料（天野真志）
第 2 章　資料救済に関わる人びと（松下正和［神戸大学］）
第 2 部　資料救済・保存の考え方
第 3 章　紙資料の救済（天野真志）
第 4 章　写真資料の救済（松下正和）
第 5 章　民具の救済（日髙真吾［国立民族学博物館］）
第 6 章　美術資料の救済（大林賢太郎［京都芸術大学］）
［COLUMN］本格修理
第 3 部　資料救済への備え方
第 7 章　救出のシミュレーション：行動計画（山内利秋［九州保健福祉大学］）
第 8 章　救済方法のシミュレーション：災害対策の実務を考える（天野真志）
第 9 章　地域とのコミュニケーション（阿部浩一［福島大学］）
第 10 章　歴史資料保存活動と「専門知」（市沢　哲［神戸大学］）
おわりに　松下正和・天野真志



金原明善

日本の〈偉人〉を捉えなおす

伴野文亮・渡辺尚志編

ISBN978-4-86766-028-7 C0020
四六判・並製・208 頁
定価：本体 2,000 円（税別）

2024 刊行

ひとりの歴史上の人物〈偉人〉をどう捉えなおすのか。
本書は、地域史の視座から〈偉人〉金原明善（きんぱらめいぜん）を捉えなおし、さまざまな視座から、近世・近代転換期日本における地域史像を豊かにしていく。その人物の辞書的記述だけではわからない、知られていないさまざまな〈顔〉をどう探すのか。
そのために本書は以下、3 つの点に重点を置く。1 つは明善の活動を、一人の偉人が自己の理想を一筋に貫いていく過程と捉えるのではなく、当時の全国的な政治・経済・社会状況や、周囲の多くの人々との相互関係のなかに位置づけようとしたこと。2 つ目は明善と金原家のこれまであまり知られてこなかった側面に光を当てようとしたこと。3 つ目は明善を長い時間軸のなかに置いて見直したこと、以上である。
金原明善から人物・地域史の可能性をどう切り拓いていけるか。〈偉人〉はどう捉えなおせばいいか。根源的に考える。執筆は、伴野文亮・渡辺尚志・伊故海貴則・棚井仁・高柳友彦・佐藤敏彦・井口裕紀・浜名高校史学部（畑陽日希・伊藤晴信・森下陽斗）・武田真幸。

【目次】

はじめに―〈偉人〉の全貌を明らかにするには　●伴野文亮
第１章　金原明善とは何者か　●伴野文亮
第２章　江戸時代からみた金原明善―近世・近代の転換期から見直す　●渡辺尚志
第３章　天竜川地域からみた治河協力社―「地域」の集団と個人から捉える　●伊故海貴則
第４章　銀行家としての金原明善―東里為換店の経営実態からせまる　●棚井仁
コラム（1）　地方名望家・資産家としての金原明善―地域経済史研究から紹介する　●高柳友彦
第５章　農業経営の改革を担った金原農場蔬菜部―明治末期の野菜栽培を描き出す　●佐藤敏彦
第６章　民衆「教化」と社会「改良」を目指す金原明善―その啓蒙活動から考える　●伴野文亮
第７章　地域史教育のなかの金原明善―高校での教育実践から考える　●井口裕紀
コラム（2）　高校生が調べた金原明善―明善研究に挑んだ高校生の声から　●井口裕紀・浜名高校史学部
おわりに―〈偉人〉金原明善を見直す　●渡辺尚志
あとがき
金原明善　関連年表　金原家文書へのアクセス

REKIHAKU 特集・顔・身体をもつ道具たち

国立歴史民俗博物館・
中村耕作・川村清志編

ISBN978-4-86766-030-0 C0021
A5 判・並製・112 頁・フルカラー
定価：本体 1,091 円（税別）
発行　国立歴史民俗博物館
発売・編集協力　文学通信

2024 刊行

国立歴史民俗博物館発！　歴史と文化への好奇心をひらく『REKIHAKU』！いまという時代を生きるのに必要な、最先端でおもしろい歴史と文化に関する研究の成果をわかりやすく伝えます。
第 11 号の特集は「顔・身体をもつ道具たち」。どうしてこの造形になったんだろう。実用的で機能的なカタチをもった道具に顔や身体が付されていることが時期・地域を超えて世界各地に見られる。この〈顔・身体をもつ道具たち〉にはどんな意味があるのか。顔が付いた縄文土器を研究している国立歴史民俗博物館・中村耕作が、他の文化では顔が付いた土器からどのような時代像が描けるかを考えた野心的特集。
社会学・心理学・文化人類学・歴史学・考古学などさまざまな学問分野から、〈顔・身体をもつ道具たち〉に迫る。新たな歴史像は果たして見えてくるのか。

【目次】

【特集鼎談】顔が付いたモノから何を明らかにできるか―考古学・心理学・文化人類学から考える―
吉田ゆか子（東京外国語大学）・山口真美（中央大学）・中村耕作（国立歴史民俗博物館）
1　人は「顔を見る」プロフェッショナル● COLUMN「顔を見る」の認知心理学（高橋康介）
2　古代の造形は「ひと」の姿をどう表現したか　「もの」が「ひと」をまとうこと―古墳時代のあとさき（上野祥史）
3　正面に獅子の顔が付けられた大型帆船　〈鳥船〉、顔のある船―明清代の唐船と琉球船（松尾恒一）
4　それは特殊な象徴性や社会的機能を持っていた● COLUMN マヤ文明における「顔・身体をもつ道具」の社会分布（今泉和也）
5　妖怪になって顔や体が生じたのか？「付喪神」はいなかった―日本における「器物の怪」の不在について（香川雅信）

たかが歴史 されど歴史　弥生時代にイエネコはいたのか（藤尾慎一郎）／博物館マンガ　第 10 回　ようこそ！ サクラ歴史民俗博物館　博物館の虫菌対策！（鷹取ゆう）／石出奈々子のれきはく！探検　第 10 回　団地ビビディ・バビディ・ブー（石出奈々子）／フィールド紀行　加耶の史跡を探訪する　第 1 回（高田貫太）／誌上博物館　歴博のイッピン　地獄をコミカルに描く　耳鳥斎筆　地獄図巻（大久保純一）／歴史研究フロントライン　交流から探るオホーツク文化・擦文文化とアイヌの文化（鈴木琢也）／ SPOTLIGHT　若手研究者たちの挑戦　「環境決定論」批判を乗り越えるために（土山祐之）／博物館のある街　宮城県気仙沼市リアス・アーク美術館　「食」のまちの美術館（萱岡雅光）／くらしの由来記　大豆から ピーナッツへ（川村清志）／研究のひとしずく　科学の目でみる歴史資料　第 3 回（完）　錦青磁の胎土分析による産地推定（小瀬戸恵美）

研究者、魚醤（ぎょしょう）と出会う。

山形の離島・飛島塩辛を追って

白石哲也・松本　剛・奥野貴士編

ISBN978-4-86766-037-9　C0095
A5 判・並製・224 頁・カラー
定価：本体 1,900 円（税別）

2024 刊行

僕たちは山形の離島、飛島に消えゆく魚醤（ぎょしょう）があると知り、調査へ向かった――。

「魚醤」という調味料をご存じだろうか。
秋田のハタハタで作る「しょっつる」や石川の「いしる」や「いしり」、香川の「いかなご醤油」は三大魚醤と知られているが、実はここ飛島でも古くから魚醤が作られている。
しかしその「飛島魚醤」は、消滅の危機に瀕している文化である。本書はその面白さを正しく追及した学術ルポだ。

調査過程を追いかけながら、様々なことがわかるように仕掛けた。島の皆さんへの取材を写真付きで掲載し、飛島魚醤の成分分析、飛島や酒田の漁業の状況など様々な角度から調べ、魚醤を使った料理も考えた。「飛島魚醤」を取り巻く人や文化、そして生物化学的視点からの記録といえるが、本書の深淵は実は別のところにある。それは何だったのだろうか。
伝統とは、文化とは一体なにか？
消え去ろうとしている「イカの塩辛」と人との関係は、なにを問いかけるのか。
気候変動が与える生活への影響や、高齢化・過疎化など、いま飛島が直面している諸問題は、より広い規模で顕在化している問題と地続きにあり、私たちにとって他人事ではない。

執筆は、白石哲也、松本　剛、奥野貴士、高木牧子、五十嵐悠、渡部陽子、高橋恵美子。
小倉ヒラク［発酵デザイナー］推薦！「海と人が溶け合う、人類学のうまみの一滴」

【目次】

はじめに―考古学者、魚醤と出会う（白石哲也）
魚醤とは何か？／日本と東アジアの魚醤の起源／考古学者、魚醤と出会う／どうして飛島へ？／魚醤という文化
飛島の地図
調査スケジュール
●第１章　はじめて飛島に行く―失われていく魚醤（白石哲也）
ハワイよりも遠い「飛島」／漁師文化の息づく島／イカの塩辛は「魚醤油」だった？／はじめて島へ行く／物々交換のために／島全体で魚醤作り
●第２章　失われるものを記録・保存したい（白石哲也）
魚醤研究の二つの課題／発酵人類学もこなす実践者／生物物理学者でフィールドワーカー／飛島魚醤を保存する！
コラム①　発酵、魚醤の化学（奥野貴士）
●第３章　飛鳥行き研究チーム発足（白石哲也・松本剛・奥野貴士・高木牧子・五十嵐悠）
研究チームの結成（白石哲也）
よりよい未来を模索するために―人類学・松本剛
［四つの下位領域からなる人類学／自己を見つめ直し続ける人類学／目指すべきは他者理解ではなく、ともに未来を創ること］
細胞膜と西洋ナシそして魚醤―生物物理学・奥野貴士
［細胞膜を表現する研究／西洋ナシ畑の環境を表現する研究／細胞膜と西洋ナシの研究の共通点］
魚醤の可能性を世界から探す―山形県水産研究所・高木牧子
［資源利用部の初代研究員／タイへの出張／ハラール適合の魚醤づくり］
研究職から見る地元の海―山形県水産研究所・五十嵐悠
［好奇心を満たすために大学進学／海は人によって印象が異なる存在だ／想定外だった研究職］
調査メモ①　長浜さん（第二次調査：２０２３年７月 18・20 日）
「イカの塩辛作らねば、魚醤なんかまずいらないわけだけどもよ」
調査メモ②　渡部さん（第二次調査：２０２３年７月 18 ～ 20 日）
「実はわたしはあんまり好きじゃないの。息子が好きで、作ってくれって言うから」
調査メモ③　Ｓさん（第二次調査：２０２３年７月 19 日）
今イカは獲れないが、獲れるようになったらまた塩辛をつくるのか？「作んないと思う。船も解体したし。86 歳だもんだから」
●第４章　調査で判明！　飛島塩辛の作り方（五十嵐悠・高木牧子）
「つゆ」と「ツユ」と「魚醤油」／聞き取り後に食い違う製法／山形県庁で引き継がれた資料／①製造の流れ／②基本的な製法／③各家庭の仕込み方／④飛島塩辛のあれこれ
コラム②　飛鳥魚醤を担うモノたち（白石哲也）
調査メモ④　持ち主が島から去った魚醤樽（第二次調査：２０２３年７月 19 日）
●第５章　各家庭の味の違いを調べてみた（奥野貴士）
魚醤の成分を調べてみた／比べることで理解が進む／分析する項目（遊離アミノ酸と塩分）／魚醤を比べてみた
●第６章　イカが消えた海―山形県・日本海北部エリアの漁業（高木牧子）
急速に変わりゆく海／山形県初のブランド施策／「おいしい魚加工支援ラボ」の誕生／そして、魚醤の開発へ／日本海に面する山形の漁業事情／山形県の生産１位のスルメイカ／伝統と結びついた魚たち／獲れなくなってしまった
コラム③　塩辛と家族の風景（渡部陽子）
取材日記　渡部陽子さんインタビュー
第二次調査の最後に／魚醤を守りたいと思っていない？／世代と、変遷する伝統／魚醤は他の人に見せたくないもの？
●第７章　消えゆく伝統的食文化を前にして思うこと（松本　剛）
ともに考えることから／飛島塩辛の正体／担い手たちの「そっけなさ」の裏に／年貢としてのスルメイカ／姿を消した飛島のシンボル／〝アクターたち〟の動的な関係性の網の目／消えゆく伝統を前に私たちがすべきことはなにか／飛島塩辛の可能性と新たな価値付け
コラム④　世界の発酵、調味料（松本　剛）
付録　魚醤を使った料理にチャレンジ（Umui 高橋恵美子）

あとがき（白石哲也）

参考文献

執筆者プロフィール

その他の刊行図書 2024.04 現在

それぞれの本の詳細は文学通信サイト［https://bungaku-report.com/］、もしくは検索してご覧下さい

	刊行年	ISBN	本体価格
東アジア文化講座・全４冊［完結］			
はじめに交流ありき―東アジアの文学と異文化交流●染谷智幸編	2021年2月	978-4-909658-44-9	2800円
漢字を使った文化はどう広がっていたのか―東アジアの漢字漢文文化圏●金文京編	2021年2月	978-4-909658-45-6	2800円
東アジアに共有される文学世界―東アジアの文学圏●小峯和明編	2021年2月	978-4-909658-46-3	2800円
東アジアの自然観―東アジアの環境と風俗●ハルオ・シラネ編	2021年2月	978-4-909658-47-0	2800円
デジタル・ヒューマニティーズ関連書			
歴史情報学の教科書―歴史のデータが世界をひらく●後藤 真・橋本雄太編	2019年4月	978-4-909658-12-8	1900円
ネット文化資源の読み方・作り方―図書館・自治体・研究者必携ガイド●岡田一祐	2019年7月	978-4-909658-14-2	2400円
デジタル学術空間の作り方―仏教学から提起する次世代人文学のモデル●下田正弘・永﨑研宣編	2019年12月	978-4-909658-19-7	2800円
欧米圏デジタル・ヒューマニティーズの基礎知識●人文情報学研究所監修	2021年7月	978-4-909658-58-6	2800円
人文学のためのテキストデータ構築入門 TEIガイドラインに準拠した取り組みにむけて●人文情報学研究所監修	2022年8月	978-4-909658-84-5	3000円
デジタルヒストリーを実践する データとしてのテキストを扱うためのビギナーズガイド●ジョナサン・ブレイニーほか	2023年10月	978-4-86766-022-5	2700円
国語教育関連書			
なぜ古典を勉強するのか―近代を古典で読み解くために●前田雅之	2018年6月	978-4-909658-00-5	3200円
国語の授業の作り方―はじめての授業マニュアル●古田尚行	2018年7月	978-4-909658-01-2	2700円
古典は本当に必要なのか、否定論者と議論して本気で考えてみた。●勝又基編	2019年9月	978-4-909658-16-6	1800円
古典教育と古典文学研究を架橋する―国語科教員の古文教材化の手順●井浪真吾	2020年3月	978-4-909658-26-5	2700円
高校に古典は本当に必要なのか―高校生が高校生のために考えたシンポジウムのまとめ●長谷川凜ほか	2021年5月	978-4-909658-36-4	1800円
古典教育をオーバーホールする―国語教育史研究と教材研究の視点から●菊野雅之	2022年9月	978-4-909658-87-6	2700円
文学授業のカンドコロ 迷える国語教師たちの物語●助川幸逸郎・幸坂健太郎・岡田真範・難波 博孝・山中勇夫	2022年7月	978-4-909658-80-7	1900円
# 卒論修論一口指南 ●田中草大	2022年6月	978-4-909658-78-4	1600円
未来を切り拓く古典教材 和本・くずし字でこんな授業ができる●山田和人・加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸編	2023年3月	978-4-86766-003-4	1900円
故事成語教材考●樋口敦士	2023年7月	978-4-86766-015-7	2800円
文学・歴史・美術・思想			
三島由紀夫は一〇代をどう生きたか―あの結末をもたらしたものへ●西法太郎	2018年11月	978-4-909658-02-9	3200円
全訳　男色大鑑〈武士編〉●染谷智幸・畑中千晶編	2018年12月	978-4-909658-03-6	1800円
全訳　男色大鑑〈歌舞伎若衆編〉●染谷智幸・畑中千晶編	2019年10月	978-4-909658-04-3	1800円
紙が語る幕末出版史―『開版指針』から解き明かす●白戸 満喜子・	2018年12月	978-4-909658-05-0	9500円
二代目市川團十郎の日記にみる享保期江戸歌舞伎●ビュールク　トーヴェ	2019年2月	978-4-909658-09-8	6000円
江戸の子どもの絵本―三〇〇年前の読書世界にタイムトラベル！●叢の会編	2019年4月	978-4-909658-10-4	1000円
〈奇〉と〈妙〉の江戸文学事典●長島弘明編	2019年5月	978-4-909658-13-5	3200円
真山青果とは何者か？●飯倉洋一・日置貴之ほか編	2019年7月	978-4-909658-15-9	2800円
注釈・考証・読解の方法―国語国文学的思考●白石良夫	2019年11月	978-4-909658-17-3	3200円
草の根歴史学の未来をどう作るか―これからの地域史研究のために●黒田智・吉岡由哲編	2020年1月	978-4-909658-18-0	2700円
薩琉軍記論―架空の琉球侵略物語はなぜ必要とされたのか●目黒将史	2019年12月	978-4-909658-20-3	15000円
怪異をつくる―日本近世怪異文化史●木場貴俊	2020年3月	978-4-909658-22-7	2800円

その他の刊行図書 2024.04 現在

それぞれの本の詳細は文学通信サイト［https://bungaku-report.com/］、もしくは検索してご覧下さい

江戸初期の香文化―香がつなぐ文化ネットワーク●堀口悟・鈴木健夫・村田真知子編	2020年2月	978-4-909658-23-4	4500円
近世前期江戸出版文化史●速水香織	2020年2月	978-4-909658-24-1	品切れ
江戸中期上方歌舞伎囃子方と音楽●前島美保	2020年2月	978-4-909658-25-8	12000円
「国文学」の批判的考察―江戸のテキストから古典を考え直す●空井伸一	2020年3月	978-4-909658-27-2	11500円
好古趣味の歴史―江戸東京からたどる●小林ふみ子・中丸宣明編著	2020年6月	978-4-909658-29-6	2800円
城壁●榛葉英治・和田敦彦	2020年6月	978-4-909658-30-2	2400円
信長徹底解読―ここまでわかった本当の姿●堀　新・井上泰至編	2020年7月	978-4-909658-31-9	2700円
杞憂に終わる連句入門●鈴木千惠子	2020年6月	978-4-909658-32-6	1500円
読書の歴史を問う―書物と読者の近代　改訂増補版●和田敦彦	2020年8月	978-4-909658-34-0	1900円
説話文学研究の最前線―説話文学会 55 周年記念・北京特別大会の記録●説話文学会編	2020年9月	978-4-909658-35-7	3000円
二十四節気で読みとく漢詩●古川末喜	2020年10月	978-4-909658-37-1	2800円
古典の未来学―Projecting Classicism ●荒木浩編	2020年10月	978-4-909658-39-5	8000円
書誌学入門ノベル！　書医あづさの手控〈クロニクル〉●白戸満喜子	2020年12月	978-4-909658-41-8	1800円
王朝物語の表現機構―解釈の自動化への抵抗●星山　健	2021年1月	978-4-909658-42-5	6000円
近代平仮名体系の成立―明治期読本と平仮名字体意識●岡田一祐	2021年2月	978-4-909658-48-7	7000円
虚学のすすめ―基礎学の言い分●白石良夫	2021年2月	978-4-909658-49-4	1900円
自由律俳句と詩人の俳句●樽見 博	2021年3月	978-4-909658-50-0	2700円
『阿毘達磨集論』の伝承―インドからチベットへ、そして過去から未来へ●高橋晃一・根本裕史編	2021年3月	978-4-909658-51-7	2400円
これからの古典の伝え方―西鶴『男色大鑑』から考える●畑中千晶	2021年3月	978-4-909658-53-1	1900円
軍記物語と合戦の心性●佐伯真一	2021年4月	978-4-909658-54-8	10000円
言いなりにならない江戸の百姓たち―「幸谷村酒井家文書」から読み解く●渡辺尚志	2021年6月	978-4-909658-56-2	1500円
『奥の細道』の再構築●井口洋	2021年11月	978-4-909658-62-3	11000円
たたかう講談師―二代目松林伯円の幕末・明治●目時美穂	2021年11月	978-4-909658-66-1	2500円
読まなければなにもはじまらない―いまから古典を〈読む〉ために●木越治・丸井貴史編	2021年11月	978-4-909658-67-8	1900円
Butoh 入門　肉体を翻訳する ●大野ロベルト・相原朋枝編	2021年12月	978-4-909658-68-5	2200円
無数のひとりが紡ぐ歴史―日記文化から近現代日本を照射する ●田中祐介編	2022年3月	978-4-909658-75-3	2800円
未墾地に入植した満蒙開拓団長の記録―堀忠雄『五福堂開拓団十年記』を読む ●黒澤　勉・小松靖彦編	2022年3月	978-4-909658-71-5	2400円
地域歴史文化継承ガイドブック―付・全国資料ネット総覧 ●天野真志・後藤　真編	2022年3月	978-4-909658-72-2	1600円
日本学の教科書　Handbook for Japanese Studies ●伴野文亮・茂木謙之介編	2022年4月	978-4-909658-73-9	1800円
職業としての大学人 ●紅野謙介	2022年4月	978-4-909658-77-7	1800円
「文壇」は作られた―川端康成と伊藤整からたどる日本近現代文学史 ●尾形大	2022年4月	978-4-909658-74-6	2000円
思い出のとしまえん ●練馬区立石神井公園ふるさと文化館編　小宮佐知子・内田 弘・小林 克著	2022年5月	978-4-909658-76-0	1900円
職業作家の生活と出版環境―日記資料から研究方法を拓く●和田敦彦編	2022年6月	978-4-909658-82-1	2700円
# 卒論修論一口指南 ●田中草大	2022年6月	978-4-909658-78-4	1600円
俳句がよくわかる文法講座　詠む・読むためのヒント●井上泰至・堀切克洋編	2022年8月	978-4-909658-79-1	1900円
人はなぜ神話〈ミュトス〉を語るのか ―拡大する世界と〈地〉の物語 ●清川 祥恵・南郷晃子・植朗子編	2022年9月	978-4-909658-85-2	2800円
江戸幕府の誕生 ―関ヶ原合戦後の国家戦略 ●渡邊大門編	2022年9月	978-4-909658-86-9	1900円

その他の刊行図書 2024.04 現在

それぞれの本の詳細は文学通信サイト［https://bungaku-report.com/］、もしくは検索してご覧下さい

増補新版　東北の古本屋●折付桂子	2022年10月	978-4-909658-88-3	1800円
川瀬巴水探索―無名なる風景の痕跡をさがす●川瀬巴水とその時代を知る会	2022年11月	978-4-909658-90-6	1900円
〈転生〉する川端康成Ⅰ　引用・オマージュの諸相●仁平政人・原善編	2022年12月	978-4-909658-89-0	2700円
学芸員の観察日記　ミュージアムのうらがわ●滝登くらげ	2023年2月	978-4-909658-93-7	1600円
家康徹底解読　ここまでわかった本当の姿●堀　新・井上泰至編	2023年2月	978-4-909658-95-1	2700円
おもろさうし選詳解●島村幸一	2023年2月	978-4-909658-97-5	10000円
児童雑誌の誕生●柿本真代	2023年2月	978-4-86766-001-0	2800円
燈謎（とうめい）漢字文化圏文字遊戯の諸相●呉　修喆	2023年2月	978-4-909658-94-4	6000円
西鶴『誹諧独吟一日千句』研究と註解●中嶋　隆	2023年2月	978-4-909658-98-2	6000円
源氏物語夢見論●笹生美貴子	2023年3月	978-4-909658-99-9	7000円
古文書の科学　料紙を複眼的に分析する●渋谷綾子・天野真志編	2023年3月	978-4-86766-004-1	1900 円
未来を切り拓く古典教材　和本・くずし字でこんな授業ができる●同志社大学古典教材開発研究センター・山田和人・加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸編	2023年3月	978-4-86766-003-4	1900 円
土偶を読むを読む●望月昭秀編	2023年4月	978-4-86766-006-5	2000円
東アジアの都市とジェンダー　過去から問い直す●小林ふみ子・染谷智幸編	2023年4月	978-4-86766-005-8	2800円
江戸の絵本読解マニュアル　子どもから大人まで楽しんだ草双紙の読み方●叢の会編	2023年4月	978-4-86766-007-2	2100円
和学知辺草【翻刻・注釈・現代語訳】●中尾友香梨・白石良夫・中尾健一郎・村上義明編　小城鍋島文庫研究会校注	2023年4月	978-4-86766-002-7	6000円
石牟礼道子と〈古典〉の水脈　他者の声が響く●野田研一・後藤隆基・山田悠介編	2023年5月	978-4-86766-008-9	2800円
伝統芸能の教科書●藤澤茜編著	2023年5月	978-4-86766-010-2	1900円
東アジアにおける笑話●佐伯孝弘・荒尾禎秀・島田大助・川上陽介・王　國良・崔　溶澈	2023年5月	978-4-86766-009-6	3200円
西鶴奇談研究●梁誠允	2023年5月	978-4-86766-012-6	5800円
詩のかたち・詩のこころ―中世日本漢文学研究―【補訂版】●堀川貴司	2023年5月	978-4-86766-011-9	10000円
日本史のなかの中世日光山　忘れられた全盛時代●永井　晋	2023年8月	978-4-86766-017-1	2000円
文士村散策　新宿・大久保いまむかし●茅原　健	2023年8月	978-4-86766-016-4	2200円
村上春樹研究　サンプリング、翻訳、アダプテーション、批評、研究の世界文学●横道　誠	2023年9月	978-4-86766-018-8	3000円
なんで日本研究するの？●シュミット堀佐知編	2023年10月	978-4-86766-019-5	2400円
百年前の野球交流　インディアナ大学 vs 早稲田大学●錦　仁	2023年11月	978-4-86766-024-9	2800円
彰義隊、敗れて末のたいこもち　明治の名物幇間、松廼家露八の生涯●目時美穂	2023年11月	978-4-86766-020-1	2500円
和本図譜　江戸を究める●日本近世文学会編	2023年11月	978-4-86766-025-6	1900円
なぜ古い本を網羅的に調べる必要があるのか　漢籍デジタル化公開と中国古典小説研究の展開●U-PARL・荒木 達雄編	2023年12月	978-4-909658-64-7	2000円
西鶴解析●井口　洋	2023年12月	978-4-86766-013-3	6000円
文化権力と日本の近代　伝統と正統性、その創造と統制・隠滅●徐禎完・鈴木彰	2023年12月	978-4-86766-027-0	2800円
予言獣大図鑑●長野栄俊編・岩間理紀・笹方政紀・峰守ひろかず著	2023年12月	978-4-86766-026-3	2200円
日本史史料研究会ブックス			
新徴組の真実にせまる―最後の組士が証言する清河八郎・浪士組・新選組・新徴組●西脇　康	2018年12月	978-4-909658-06-7	1300円
新 神風と悪党の世紀―神国日本の舞台裏●海津 一朗	2019年1月	978-4-909658-07-4	1200円
六波羅探題 研究の軌跡―研究史ハンドブック●久保田和彦	2020年1月	978-4-909658-21-0	1200円
ここまでわかった戦国時代の天皇と公家衆たち―天皇制度は存亡の危機だったのか？新装版●神田裕理編	2020年7月	978-4-909658-33-3	1350円

その他の刊行図書 2024.04 現在

それぞれの本の詳細は文学通信サイト［https://bungaku-report.com/］、もしくは検索してご覧下さい

戦国時代と一向一揆●竹間芳明	2021年6月	978-4-909658-55-5	1600円
幕末大江戸のおまわりさん―史料が語る新徴組●西脇　康	2021年10月	978-4-909658-65-4	1500円
論考　日本中世史―武士たちの行動・武士たちの思想●細川重男	2022年3月	978-4-909658-70-8	1800円
REKIHAKU・国立歴史民俗博物館発行			
REKIHAKU　特集・されど歴史●山田慎也・内田順子・橋本雄太編	2020年10月	978-4-909658-38-8	1091円
REKIHAKU　特集・いまこそ、東アジア交流史●高田貫太・橋本雄太編	2021年2月	978-4-909658-43-2	1091円
REKIHAKU　特集・日記がひらく歴史のトビラ●三上喜孝・内田順子編	2021年6月	978-4-909658-57-9	1091円
REKIHAKU　特集・歴史のなかの疫病●福岡万里子・高田貫太編	2021年10月	978-4-909658-63-0	1091円
REKIHAKU　特集・ファッション×博物館●澤田和人編・吉村郊子編	2022年2月	978-4-909658-69-2	1091円
REKIHAKU　特集・人工知能の現代史●橋本雄太・澤田和人編	2022年6月	978-4-909658-81-4	1091円
REKIHAKU　特集・歴史の「匂い」●小倉慈司・高田貫太編	2022年10月	978-4-909658-91-3	1091円
REKIHAKU　特集・アートがひらく地域文化●川村清志・天野真志編	2023年2月	978-4-909658-96-8	1091円
REKIHAKU　特集・推定不能　炭素14研究がとらえた未知の巨大太陽フレアの謎●箱崎真隆・橋本雄太編	2023年6月	978-4-86766-014-0	1091円
REKIHAKU　特集・歴史をつなぐ	2023年10月	978-4-86766-023-2	1091円
REKIHAKU　特集・顔・身体をもつ道具たち	2024年2月	978-4-86766-030-0	1091円
地方史はおもしろい・地方史研究協議会編			
日本の歴史を解きほぐす―地域資料からの探求●地方史研究協議会編	2020年4月	978-4-909658-28-9	1500円
日本の歴史を原点から探る―地域資料との出会い●地方史研究協議会編	2020年10月	978-4-909658-40-1	1500円
日本の歴史を問いかける―山形県〈庄内〉からの挑戦●地方史研究協議会編	2021年3月	978-4-909658-52-4	1500円
日本の歴史を描き直す―信越地域の歴史像●地方史研究協議会編	2021年9月	978-4-909658-61-6	1500円
日本の歴史を突き詰める　おおさかの歴史●地方史研究協議会編	2022年12月	978-4-909658-92-0	1500円
徳島から探求する日本の歴史●地方史研究協議会編	2023年11月	978-4-86766-021-8	1500円
玉藻前アンソロジー［全3巻］			
玉藻前アンソロジー　殺之巻●朝里 樹編著	2021年7月	978-4-909658-59-3	1900円
玉藻前アンソロジー　生之巻●朝里 樹編著	2022年10月	978-4-909658-83-8	1900円
玉藻前アンソロジー　石之巻●朝里 樹編著		近刊	
その他			
中華オタク用語辞典●はちこ	2019年3月	978-4-909658-08-1	1800円
【呉公藻・馬岳梁版】太極拳講義●沈 剛・日高崇編著	2021年8月	978-4-909658-60-9	1300円
波多野華涯書簡集―門人濱口梧洞との往復書簡●岩田秀行・小田切マリ［私家版］	2019年3月	978-4-909658-11-1	品切れ